

QOL向上を目指す専門職間連携教育用教材

母性

■スライドを次に進めるには...
・スライド上をクリック、スペースバー、カーソル移動キー「→」で行います。

■スライドを次に進めたり戻したりするには...
・左の「目次」「サムネイル」やカーソル移動キー「←」「→」で行います。

1



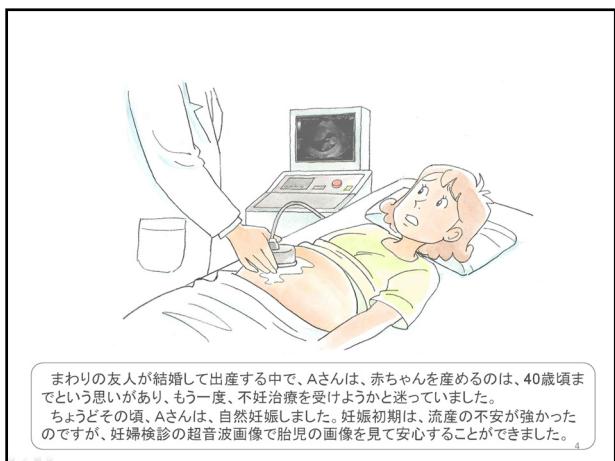
Aさんは、38歳の会社員で41歳になる夫と二人で暮らしています。結婚したのは、Aさんが30歳の時でした。
現在、Aさんは、妊娠17週をを迎えています。

2

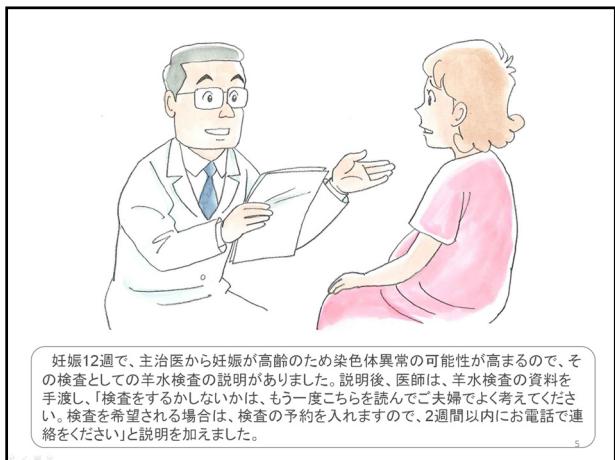


33歳の時、妊娠を希望して不妊外来を受診しました。受診後、排卵誘発剤を使用し、2回妊娠しましたが、2回とも妊娠8週目で自然流産となりました。
しかし、妊娠してもまた流産してしまうという思いがあり、不妊治療は2年間でやめました。

3



まわりの友人が結婚して出産する中で、Aさんは、赤ちゃんを産めるのは、40歳頃までという思いがあり、もう一度、不妊治療を受けようかと迷っていました。
ちょうどその頃、Aさんは、自然妊娠しました。妊娠初期は、流産の不安が強かったのですが、妊婦検診の超音波画像で胎児の画像を見て安心することができました。⁴



妊娠12週で、主治医から妊娠が高齢のため染色体異常の可能性が高まるので、その検査としての羊水検査の説明がありました。説明後、医師は、羊水検査の資料を手渡し、「検査をするかしないかは、もう一度こちらを読んでご夫婦でよく考えてください。検査を希望される場合は、検査の予約を入れますので、2週間以内にお電話で連絡をください」と説明を加えました。⁵



夫の帰宅後、Aさんは、資料を手渡して、羊水検査のことを夫に話した。夫は、自分の姉が40歳で出産したときに羊水検査を受けたので、Aさんに受けてみたらと即答しました。Aさんは、羊水検査のことを夫の姉に電話で聞きました。
姉は、緊張したけれど、針を刺すところに麻酔をしたのが痛かった程度で、検査は痛みもなくすぐ終わり、その後は、いつもよりお腹が硬くなる感じがしたけれど、次の日には何もなかったことと、検査をすれば安心するからと検査を勧められました。Aさんは、大変な検査でもなさうなので、安心できるならと検査を受けることにしました。⁶



その後、妊娠15週にAさんは、羊水検査を受けました。検査の結果は、次回の妊婦健診までにわかるとのことでした。

7



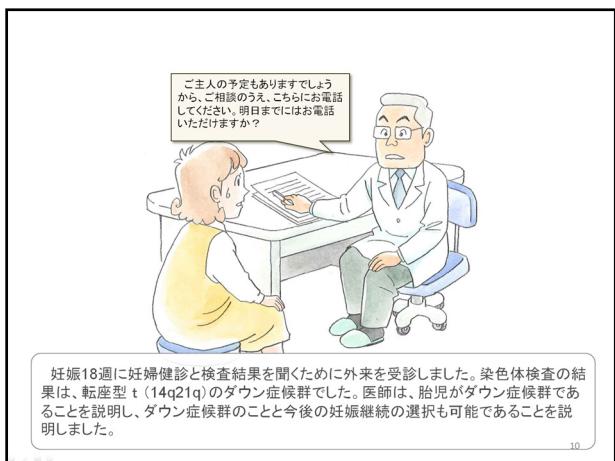
妊娠18週に妊婦健診と検査結果を聞くために外来を受診しました。染色体検査の結果は、転座型t(14q21q)のダウン症候群でした。医師は、胎児がダウン症候群であることを説明し、ダウン症候群のことと今後の妊娠継続の選択も可能であることを説明しました。

8



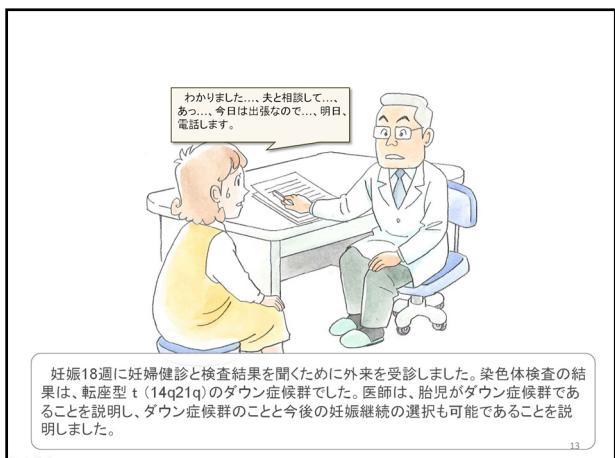
妊娠18週に妊婦健診と検査結果を聞くために外来を受診しました。染色体検査の結果は、転座型t(14q21q)のダウン症候群でした。医師は、胎児がダウン症候群であることを説明し、ダウン症候群のことと今後の妊娠継続の選択も可能であることを説明しました。

9





















19



20



21













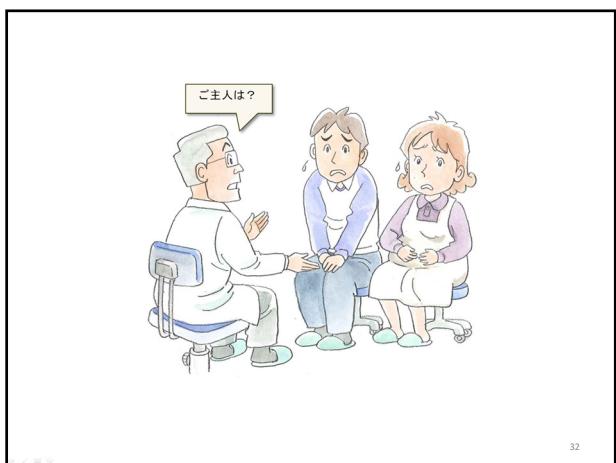








31



32



33



34



35



36
